



連載

ビブリア・トーク  
—私のオススメ—

… 野田夏子 (芝浦工業大学)

## 翻訳できない世界のことは

エラ・フランシス・サンダース 著, 前田まゆみ 訳  
創元社 (2016), 112p., 1,600 円 + 税, ISBN : 978-4422701042

## 分類できない私の 1 冊

職場でも自宅でも、私の部屋には結構たくさんの本があります。整理整頓の類にはあまり頓着しないほうですが、それでも「あの本どこだっけ」を連発しなくて済むように、ざっとした自分なりの分類はして本棚にしまいます。ところが今月で紹介するこの本『翻訳できない世界のことは』は、どこに分類しようか、大変に悩ましいのです。

絵本？ 表紙を眺め、中をばらばらと覗いてみれば、まずはそのように思うかもしれません。文章も手描き文字を使ったものがたくさんあり、カラフルな絵と一体になって楽しげな雰囲気を出しています。

でも、何かのストーリーを絵で説明しているものではないことがすぐに分かります。見開き 2 ページで 1 つになっていて、左側のページには「ズール語 名詞」「ロシア語 動詞」「ハンガリー語 形容詞」といった各国の言語名と品詞が書かれ、右側のページに単語と、その単語を絵と手描き文字で説明したイラストが置かれています。全部で 52 の単語が説明されています。辞書です、もっともちいさな子供向けといった感じですが。

辞書といっても、ここには一言語ではなく、世界中から集められた言葉が並びます。「ドイツ語」「日本語」(!)といったなじみ深いものだけでなく、「トゥル語」「イディッシュ語」など、いったいその言葉はどの国で話されているのか、そもそもその国はどこにあるのか知らないようなものも登場します。世界の文化についての良い参考書になるかもしれません。

とにかく、この本が分類上は何であれ、一目見た

ときからお気に入りとなり、どこにも分類できないままに一番目立つところにぽんと置いている、まさに分類できない私の 1 冊です。

## こもれび

さて、なぜ『情報処理』誌でこれを紹介するのかと言いますと、私はこの本で Ubuntu の意味を知ることができたからです。OS の 1 つである Ubuntu の名前の由来を、本誌の読者の皆様であればとっくにご存知かもしれません。ですが私はこの本に出会うまで気にもとめていませんでした。すでにご存知の方も気にとめていなかった方も、ぜひ本書で確かめてみてください。

それはさておき、本書でいうところの翻訳できない言葉、というのは、別の言語では一語（あるいは 1 つの短い熟語）に置き換えることができない言葉のことです。その言葉を説明することはできても、ぴったり当てはまる一語が見つからない、そんな言葉たちです。たとえば、「こもれび」。生い茂った木の葉の間から漏れ差し陽の光のこと、シャワーのように柔らかく光が降り注ぐさまはとても美しいものです。こうした光景は日本でなくても森林のある国でなら見られるものだと思いますが、日本語以外の多くの言語ではこの光景を一語ではうまくすくい取れないようです。

ちなみに、翻訳できない、と言われると、翻訳してみたいのが人情（あるいは情報処理技術者根性？）というもので、Google 翻訳にかけてみました。「こもれび」なら “Welcome”, 「木漏れ日」なら “Sunbeams leaves” だそうです！

## わびさび

そんな翻訳しがたい言葉たちはたとえ、一語で、という制約を取り去ったとしても、本来別の言語で説明することは難しいはず（さらに本書は、オリジナルは英語（原題“Lost in Translation”）なので英語にはない概念を英語で説明しようとし、さらにそれを日本語に翻訳する、という二重の難しさもあったでしょう）。「木漏れ日」に今まで目をとめることがなかった人に、その光景とその後ろに私たち日本人が感じ取っている美しさを含めて説明しようとすれば、かなりの字数を要するどころか、説明が失敗する可能性もありそうです。それを本書は、言語による説明に加えてイラストという手段を使うことによって、その言葉が内包する情報をうまく伝えています。

ただ、説明もイラストも、すべてを説明しきってはいないのです。イラストは決して説明的ではありません。作者も、完全に説明することは最初から狙っていないのでしょう。不完全さを残しながら、その余白から読む者に何かを伝えようとしている、そんな気がしました。

余白を残した上で読者に何かを伝える、それは翻訳という行為そのものなのかもしれません。そう思うと、良い翻訳は実はわびさびの精神につながっている？などと私の思考は飛躍するのです。

## ぼけっと

本書は、情報処理技術にかかわる専門書でも、情報処理技術が実現するかもしれない未来を描くSFでもありません。でも私はこの本を開くとき、言葉とは何か、情報とは何か、情報を変換するとは何か、といった情報処理の根幹につながる問いをいつしか考えています。

もっとも、そんな小難しいことは横において、ぼけっとこの本を眺め、世界中から集められた楽しい言葉、素敵な言葉を楽しむ、それが本書の正しい読み方かもしれません。お気に入りの言葉を見つけてみるのも楽しいと思います。私の目下のお気に入りは、PISAN ZAPRAです。この原稿を書くのに、いったい何PISAN ZAPRAかかったことか！ 毎日を忙しく過ごす読者の皆様が、この本を手に取り、数式や理論でいっぱい頭を少しでもリラックさせていただければ嬉しいです。

(2017年12月8日受付)

野田夏子（正会員） [nnoda@shibaura-it.ac.jp](mailto:nnoda@shibaura-it.ac.jp)

東京女子大学理学研究科数学専攻修了。北陸先端科学技術大学院大学博士後期課程修了。博士（情報科学）。NEC勤務を経て、2013年より芝浦工業大学准教授。

